

## 結核の集団感染について

令和4年7月に市内の医療機関で結核患者<sup>※1</sup>が発生し、関係者に対する疫学調査および接触者の健康診断を行った結果、これまでに、加えて4人の結核患者と1人の潜在性結核感染症患者<sup>※2</sup>の発生を確認しました。患者への疫学調査および結核菌遺伝子型分析の結果、本件が結核の集団感染であることが確定しました。

結核は過去の病気ではなく、いまだに多くの方が感染、発病しています。年に1度は健康診断を受け、また、風邪のような症状が2週間以上続く場合は医療機関を受診しましょう。

1 集団感染発生確定日 令和5年10月19日(木)

### 2 初探知患者

- |               |              |
|---------------|--------------|
| (1) 年齢、性別     | 70代、女性       |
| (2) 職業        | 団体職員         |
| (3) 発症日       | 令和4年4月上旬(推定) |
| (4) 病院診断日     | 令和4年7月7日     |
| (5) 初探知患者発見動機 | 職場健診         |
| (6) 感染経路      | 不明           |

### 3 概要

#### (1) 経過

- 令和4年7月7日に医療機関から仙台市保健所泉支所に結核患者(初探知患者)の発生届があった。
- 泉支所は発生届を受け、当該患者への疫学調査を開始し、これまでに47人の接触者健康診断(初探知患者の勤務先等)を実施した。
- この結果、令和5年10月19日までに結核患者4人、潜在性結核感染症患者1人を確認した。結核菌遺伝子型分析を行ったところ、3人の遺伝子型が一致したことから、集団感染<sup>※3</sup>であることが確定した。

#### (2) 確認された患者の数(令和5年10月27日現在)

結核患者 5人(初探知患者を含む) ※うち3人は現在も治療中  
潜在性結核感染症患者 1人 ※現在も治療中

### 4 行政対応

- 患者の健康調査、接触者調査および感染拡大防止の立ち入り等による指導を実施。
- 治療中の患者に対して、服薬継続が確実にされるよう支援を実施。
- 接触者に対して健診や継続的な経過観察等を実施。

#### ※1 結核患者

結核菌に感染し、免疫力の低下などで、菌が体内で活動し始め、主に肺に病巣をつくり、咳、痰等の症状がある方

#### ※2 潜在性結核感染症患者

結核菌に感染しているが、発病していない方

### ※3 結核集団感染の定義（平成19年3月29日付厚生労働省結核感染症課長通知）

同一の感染源が、2家族以上にまたがり、20人以上に結核を感染させた場合をいう。ただし、発病者（結核患者）1人は6人が感染したものとして感染者数を計算する。

本件の場合、感染者数は25人（発病者4人×6人+感染者（発病者を除く）1人×1人）。

\*宮城県内では平成5年以降13件発生し、本事例で14件目（うち仙台市11件目）。

## 参考：結核について

### ○結核とはどのような病気か

結核菌により、主に肺に炎症を起こす感染症です。結核が進行した患者の咳やくしゃみなどで空気中に飛び散った結核菌を吸い込むことで感染します。

### ○感染と発病の違い

「感染」＝「発病」ではありません。吸い込まれた結核菌の大半は、鼻、のど、気管支などに付着し、そこにある繊毛の働きによって体外に排出されるため感染しませんが、肺まで侵入すると「感染」します。感染しても必ず発病するわけではなく、通常は免疫力により結核菌の増殖を抑えられます。

しかし、免疫力の低下などで菌が体内で活動し始め、増殖を抑えきれなくなり、咳、痰、発熱などの症状がでたり、胸部X線写真で異常陰影が現れたりする状態を「発病」といいます。ただし、「発病」しても「排菌」していない場合は、他の人に感染させる心配はありません。

感染した人のうち発病するのは10人に1～2人とされています。発病は感染後2年以内がほとんどですが、中には何十年もたった後に免疫力が落ちて発病する方もいます。

### ○潜在性結核感染症とは

結核に感染していますが、現時点では発病していない状態です。ツベルクリン反応検査や血液検査により診断します。周りの人にうつすことはありません。

将来の発病を抑えるために服薬治療が必要で、原則として1種類の抗結核薬を6カ月または9カ月間、あるいは2種類の抗結核薬を3カ月または4カ月間服用します。

### ○結核はどんな治療をするのか

3～4種類の抗結核薬を6カ月から9カ月間、毎日きちんと飲めば治ります。

症状が消えたからといって、治療の途中で服薬を止めてしまうと治りません。治療を確実にするために医療機関や保健所がDOTS（直接服薬確認療法）による服薬支援を行っています。

### ○新登録結核患者数

	仙台市		宮城県 (仙台市を除く)		全国	
	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率
平成30年	75	6.9	91	7.4	15,590	12.3
平成31年(令和元年)	76	7.0	92	7.6	14,460	11.5
令和2年	66	6.0	69	5.7	12,739	10.1
令和3年	86	7.8	66	5.5	11,519	9.2
令和4年	65	5.9	62	5.3	10,235	8.2

\*罹患率：人口10万人あたりの患者数

\*新登録患者数の減少傾向。令和4年の罹患率は政令指定都市中3番目に低い

\*結核患者の約6割を70歳以上が占めている